

## 途上国アルバム： パプアニューギニア

大野 政義

パプアニューギニア独立国国家計画モニタリング省/財務省アドバイザー  
独立行政法人国際協力機構派遣個別専門家

「パプアニューギニア」と聞いて、「どこにある国？アフリカ？」と思われる一般の方も少なくないかと思います。かくいう私も 1984 年に初めてパプアニューギニアに赴任する前に、「P.N.G にポストがあるから赴任しないか？」と言われ、「P.N.G？ 国名？パプアニューギニア？どこ？」というのが、最初の質問でした。パプアニューギニア（以下 PNG）は、最近では、昨年 2018 年に初めて APEC の総会が太平洋島嶼国で唯一のメンバー国である PNG の首都ポートモレスビーで開催され、一過的だったかもしれませんが、米国や豪州、そして日本、ニュージーランドと中国の地域安全保障、貿易対立が話題になり、その国名が世界中のニュースで流れました。また、太平洋戦争時には、日本軍関係者だけでも 127,600 名以上の戦死者がでた激戦地で、「ラバウル飛行場、ラバウル小唄」や「山本五十六総合司令官が搭乗していた日本軍の飛行機が撃墜された国」として、年配の方々ではご存知の方も少なくないと思います。



日本軍飛行機の残骸



ウエワクの英霊碑



上陸用舟艇残骸

PNG は、赤道直下に近い南緯 4 度に位置し、グリーンランドに次いで 2 番目に大きな島の東半分と（西半分はインドネシア領イリアンジャワ/西パプア）、600 以上の島々からなっていますが、面積約 46 万平方キロメートル（日本の約 1.25 倍）に、約 825 万（2017 年世銀推計）の人口しかありません。しかし、部族数は 800 以上、言語数も世界で一番多く 850 以上の言語が話されているとされています。つまり、一部族一言語の世界というとてもユニークな国です。また、小さな島々から富士山よりも高

いマウントウイルヘルム山 (4,509m) があり、国土の 60%以上が豊富な熱帯雨林に覆われており、自然も豊かで、美しい珊瑚礁の島々から様々な野鳥や原生蘭・花、動物が生息し、「世界最後の秘境」と称されています。ニューギニア島には 5 万年以上前に人類が定住したと言われており、約 1 万年前の世界最古の農耕地跡が発見されており、世界遺産にも指定されています。



どこまでも透明な海



国鳥の不死鳥



原生蘭の宝庫

また、パプアニューギニアは、近代文明との接触が最も遅かった国とも言われています。16 世紀初頭に、欧州の航海船が島嶼地域やニューギニア本島の海岸地域に初めて訪れ、その後 19 世後半に入植が始まっていますが、ハイランド地方はゴールドラッシュに沸いた 1930 年代まで、外界との接触がなく、石器時代から近代文明に突然ワープした国とされている。ニューギニア北東部のニューブリテン島のラバウル地域では、貝貨幣（シェルマネー）が古くから使用され、今でも冠婚葬祭や市場で活用されており、当国の通貨単位も貝を意味する「キナ」です。また、ハイランド地方では、貴重な動物性蛋白源として豚が古くから農村家族・部族社会で飼育されてきているが、現在でも冠婚葬祭は、部族間闘争の和解、賠償の為の交換財として重要な資産となっている。こうした多様な文化と歴史・慣習をもつパプアニューギニア、前述の通り、日本よりも少し大きな国土に多くの言語を話す部族がおり、また地方によって人々の容姿も多様で、ハイランド地方のゴロカ等で毎年開催されるカルチャルショーでは、全国の伝統的な部族の衣装と舞踊が楽しめます。



貝の貨幣(シェルマネー)



ブーゲンビル島の子供達



フリ族の伝統衣装・踊り

このような多様な文化とユニークな歴史をもつパプアニューギニアですが、急速な社会の変化と資本主義経済の浸透と開発で、伝統的な社会に様々な歪が出てきているのも事実です。豊富な天然資源に恵まれたパプアニューギニアは、漁業資源では、豊富なかつおやマグロ資源が同国の排他的経済水域にあり、日本の水産業にとっても重要なパートナーである。また、金・銀・銅やニッケル等の鉱物資源開発も盛んで、豪州やカナダ、南アの大手鉱山会社が活発に活動している。近年では、液化天然ガスの開発が進み、その生産量の半分を日本に輸出している。

こうした開発が進む一方で、1975年の独立以来、44年が経過しようとしているが、人間開発指数（HDI）は0.544（2017年）で、世界189か国中153番目に位置し、残念ながら低人間開発国に分類され、大洋州諸国の中でも最も低く、同地域の平均指数を押し下げています。総GDPは230億米ドル（2018年）、一人当たりのGNIも2,500米ドルを越え、低中所得国に分類されながらも、こうした人間開発指数が低いのは、政府の脆弱なガバナンス、富の再分配や政府の開発予算の配分と公共開発計画がうまく成果をあげていない事が大きな原因とされています。ガバナンスの脆弱さは、Transparency Internationalが毎年発表する汚職指数でも世界180か国中138番目（2018年）とされ、公共サービス・民間セクターの末端からトップ、そして政治家を中心に、汚職疑惑は絶えず、これらの問題にどのように政府も民間も真剣に対処していくのかが、今後の人間開発指数の改善、持続的な開発（SDGsの達成）の成否の鍵を握っているといっても過言ではありません。

私は以前、1984年から1993年まで、そして1995年から4年間当国に勤務し、2017年に18年ぶりに長期赴任で当国に再度赴任しています。首都ポートモレスビーは、昔に比べると、確かに多くの新しいビルが建ち、大型ショッピングモールやレスト

ランや娯楽施設も増え、一般のパプアニューギニア人の家族もたくさん利用しており、一見、当国が順調な発展を遂げているような錯覚を持ってしまいそうですが、ひとたびこうしたビジネス官庁街やショッピングモールを出ると、電気や安全な飲料水のアクセスがないセトルメントや地方の農村地域が多く存在し、電気へのアクセス（電化率）も 13%、安全に飲める水へのアクセスは、農村部では 33%と途上国の中でも最も低い状況で、保健指標もポリオの再発生流行や、乳幼児や妊婦の死亡率も高く、多くの僻地を中心にヘルスサービスの改善は大きな課題となっています。

このように多くの開発課題を抱えるパプアニューギニアで、当国の開発政策を担う国家計画モニタリング省と国家予算編成を担う財務省の両省庁にデスクをかまえ、パプアニューギニア人の同僚達と当国の開発・発展には何がベストなのか、ベターなのか、卓上の政策議論だけではなく、PNG独自のパプアニューギニア人による開発政策・計画策定を支援し、実践的に現場に足を運びながら開発プロジェクト/プログラムの策定とマネジメントを指導しています。また、パプアニューギニア政府は 2050 年までの人間開発指数における上位グループへの仲間入りも、その長期開発ビジョンで目指しており、国家中期開発計画、セクター開発計画、州や郡等の地方行政府レベルの開発計画作り実施マネジメントの向上支援業務に携わり、当国の持続的な開発発展に微力ながら貢献できないか、日本政府の優良援助案件の形成実施支援も含めて、日々試行錯誤しながら、活動しています。



美しい夕焼けの首都ポートモレスビー  
(中央の大きな屋根の建物は 2018 年 APEC 総会  
の為に建設した APEC HAUS)



西ニューブリテン州の橋梁建設プロジェクト  
国家計画モニタリング省の同僚と公共事業省  
スタッフと進捗モニタリング